

医療施設長 様

鹿児島市医師会臨床検査センター

センター長 上ノ町 仁

新規実施項目のお知らせ

日頃より当検査センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。

この度、外部委託先の S R L より、下記の新規実施項目の案内がありましたのでお知らせいたします。

該当する検査項目をご依頼いただく際はご注意ください。よろしくお願いいたします。よろしくお願い申し上げます。

記

■実施日

2020 年 6 月 22 日（月）ご依頼分より

■新規実施項目

検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)
ロイシンリッチα2 グリコプロテイン (LRG)	血清 0.5	A 生化学用 (茶)	冷蔵 (28日)	2~4	276 ※4	ラテック ス凝集 免疫法	16.0未満 (カットオフ値) (μg/mL)

※4：生化学的検査（I）判断料

※裏面をご参照ください

● ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン (LRG)

炎症性腸疾患における活動期の判定補助に有用な検査です。

ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン (Leucine-rich alpha 2 glycoprotein : LRG) は、ロイシンリッチリピートと呼ばれるドメインを8つ含む約50kDaの糖蛋白質で、炎症局所で産生される新規血清バイオマーカーです。

特に潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease : IBD) においては、内視鏡検査による疾患活動性評価とLRG値が相関することから、侵襲性の低い検体検査で簡便に評価することが可能となります。

また、LRGはTNF α 、IL-22といったIL-6以外のサイトカインで引き起こされる炎症でも発現するため、CRPが正常範囲内の症例における活動性評価に有用です。臨床指標とCRP、LRGの組み合わせ測定では単独測定に比べ、活動期の病態検出感度が高くなることも報告されています。

IBDにおける活動期の判定補助やモニタリング、治療選択の一助としてご活用ください。

▼疾患との関連

潰瘍性大腸炎
クローン病

▼関連する主な検査項目

C反応性蛋白 (CRP) 定量
便中カルプロテクチン
NUDT15遺伝子codon139 多型解析

▼検査要項

検査項目名	ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン (LRG)
検体量	血清 0.5 mL
容器	A 生化学用 (茶)
保存方法	冷蔵保存
所要日数	2~4 日
検査方法	ラテックス凝集免疫法
基準値	16.0未満 (カットオフ値) ($\mu\text{g}/\text{mL}$)
検査実施料	276点 (「D003」糞便検査「9」)
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)
備考	炎症性腸疾患の活動期の判定における参考基準値は16.0 $\mu\text{g}/\text{mL}$ です。感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。

●参考文献

高山 茂雄, 他 : 医学と薬学 76 (12) : 1769~1780, 2019. (検査方法参考文献)

藤本 穰, 他 : 医学のあゆみ 270 (13) : 1215~1216, 2019. (臨床的意義参考文献)